

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071101358		
法人名	医療法人福弘会		
事業所名	日佐宅老所		
所在地	福岡市南区的場2丁目31-21 (電話) 092-501-4111		
自己評価作成日	平成 30 年 8 月 1 日	評価結果確定日	平成 30 年 11 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

出来るだけ自宅と同じような環境で過ごせる様、自室には好きな物を置いたり、飾ったりして頂いてます。一人ひとりのペースに合わせ適切なアプローチが出来るように、職員で情報の共有に努めています。また、家事活動で役割を持って頂くことで、個人の残存機能を維持できるよう支援を行っています。散歩に出かけた際には、地域の方達と挨拶を交わしたり、お話をしたりと交流を図っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 30 年 8 月 30 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は市内循環道路から少し入った住宅地に位置し、向かいに同法人の介護老人保健施設がある。すぐ傍には緑多い神社があり、利用者の散歩コースとなっている。建物は木造2階建てで内部は家庭的な雰囲気となっており、利用者と職員の距離も近く会話も弾みやすい。職員は理念を念頭に置き、利用者の気持ちに寄り添うという共通の思いで、日々、明るく協力し合って支援にあたっている。また法人内の職員とも委員会や研修、行事などを通して協力関係にあり、このことが、一層、利用者のケアの向上に繋がっている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根差したホームづくりを理念に掲げ、毎朝、申し送り時に出勤職員全員が理念を唱和することで施設理念の共有と再認識を行い、常に理念に基づくケアの実施に努めている。	事業所独自の理念があり、各利用者に対し思いやりを持ち、笑顔と優しさで接するケアと、地域と繋がって生活が送れるような支援を目指す内容となっている。朝礼や毎月のスタッフ会議において理念を確認、共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事の案内を行ったり、地域行事に参加させて頂いたりしている。また、散歩の時には挨拶を交わしたりしている。	職員は利用者と共に地域の夏祭りやどんと焼きに参加し、更に法人主催の行事にも参加するなど、できるだけ地域の人と交流できるようにしている。また地域のボランティアや幼稚園児の訪問を受け入れて、地域とのつながりに努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、包括支援センターの職員の方や民生委員の方、及び入居者やご家族と地域の現状について情報交換をしている。見学の方や電話での介護相談は随時受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者様状況・活動報告や外部研修も報告している。近隣施設の参加により情報交換を行い、出た意見は議事録にまとめサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、利用者や家族の他、地域包括支援センター、自治会長、民生委員などの参加がある。会議では利用者の状況報告や事故報告がされ、問題解決に向けての話し合いや研修を行うこともある。出席者からの意見や提案は運営に活かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター主催の研修や集まりに参加し、情報交換に努めている。市などからくるメールやFAXで必要な情報を収集し、分からない点は電話で問い合わせ確認している。運営推進会議への参加案内も行う協力関係を築く努力をしている。	日ごろから市には運営面の相談やサービスの取り組みを報告し、その他に事務手続き上等でも連携している。また、地域高齢者に対する市の取り組みにも積極的に参加し、協力体制にある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないという認識のもとケアに取り組んでいる。研修会にてどのような行為が身体拘束にあたるのかという具体的な事象についても確認している。更衣室にも張り出し周知徹底を行っている。	日中は玄関の施錠はされておらず、身体拘束をしないケアを基本としている。利用者の外出傾向を把握した上で、見守りや散歩への付き添いを行い、また体動が極端な利用者には予防マットを敷く等といったように、安全に留意しながらも、身体拘束をしない工夫を行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが自身の接遇のあり方を振り返るようにしている。また、高齢者虐待防止の研修に参加している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、権利擁護に関する知識を深め、勉強会において全職員が学ぶ機会を持ち、活用できるように取り組んでいる。	権利擁護に関する制度については、契約時及び必要に応じて家族に説明を行っている。また年に一度、代表者が外部研修を受け、その伝達研修が行われ、職員は制度の理解のために研鑽に努めている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を提示して丁寧に説明している。不安や疑問についての確認を必ず行い、理解と納得が得られるようにしている。料金改定等があった場合も速やかに連絡・説明を行い、理解と納得が得られるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して気軽に意見が頂けるようにしている。日頃よりご家族との対話を大切に話しやすい環境作りをしている。	職員は、利用者からは日常的に、家族からは面会時に意見を聴くようにしている。利用者、家族からは主に外出の希望が出される。その他の要望や意見にも、できる限りの対応を行い、運営にも反映するよう努めている。また第三者相談窓口にも申立てができることも説明している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月末にスタッフ会議を開き、意見交換を行っている。運営に関する疑問は管理者にすぐ伝え、意見を出し合っている。	管理者は、スタッフ会議時及び個別に職員から意見を聞くようにしている。ケア方法について職員同士で検討する場もあり、提案や意見が出やすい環境を整えている。また、異動や離職を最小限度に抑えられるよう、職員の体調面も気遣っている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の勤務状況などを報告しており、働きやすい環境作り等の整備に努めている。接遇研修の一環で表彰を行い、モチベーションの向上につなげている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用については性別や年齢等を理由に排除していない。また、個々の能力を活かしながら勤務できるように努めている。学びの意欲が高い職員については外部研修なども受ける機会を確保している。	法人が職員の採用を行っているが、年齢や性別を採用条件にしていない。また、資格取得のための休暇等、勤務シフトに配慮して、職員が意欲的に働きやすい職場環境になるよう努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権マナー委員会を設置し、毎月の会議のもと啓発活動を行っている。委員会による研修にも参加している。	法人内で人権マナー委員会を設けており、その委員会を中心に研修が行われ、事業所内部でも高齢者や虐待に対する人権に関する研修がされている。更に職員は研修後にレポートをまとめ、それぞれに内容の確認を行っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立案し、効果的な学びの機会を提供している。また、グループ全体で個々に合った研修を毎月開催してスキルアップ向上を図っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に出席したり、同業者との意見交換に参加して、積極的に交流している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初に面談し、ご本人とご家族からの相談・要望等を伺っている。面会のたびにスタッフがご本人様の様子を詳細に伝えるよう指導している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際に、必ずご家族と連絡を取り、要望等を聞き支援方法を提案している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面談時に、ご本人やご家族とお話の中でニーズを明らかにし、必要に応じたサービスについても検討できるように支援している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の生活の中で洗濯物や掃除などお任せできることは行って頂き、生活空間を共にすることで生活における意識の共有に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事のご案内を差し上げたり、毎月、日頃の様子をお便りでお知らせしている。また、可能な範囲での外出や外泊をお願いしご家族との絆と支援体制の維持に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人などとの交流や面会を勧めるとともに、入居前に参加していた集まり事や訪れていた場所には継続して行って頂くようにしている。	職員は家族や本人から情報を収集し、馴染みの人や場所について把握している。地域の友人の訪問の受け入れや手紙のやりとりの支援も行い、関係の継続に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で共有スペースの席を設け、スタッフが介入しながら利用者同士、誰とでも会話できるよう雰囲気作りを努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても定期的に連絡をとり、その後の生活の把握と必要時には支援できるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	以前、入所されていた施設で交流のあった方との面会や、縫い物などの入居前に持っていた趣味なども続けられるよう、できるだけ意向に沿った対応を行っている。	入所時に本人や家族から聞き取りをしている。入所後も半年ごと、あるいは本人の心身の状況が大きく変わった際には新たに聞き取りし、本人・家族の思い、希望や意向を正しく把握できるよう努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から今までの生活歴を聞き、本人に合った生活リズムで過ごして頂けるよう配慮している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態や能力の把握に努め、その日の体調や気分に合わせて対応を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の心身の状況を観察し、ニーズを把握すると共に、ご家族の意向を確認しケアの方向性を決めていっている。月1回はスタッフ同士評価を行い、介護計画見直しの必要性を話し合い検討している。	入所時にアセスメントして得られた個別の生活課題に沿って作成されたケアプランを通して生活支援を行っている。このケアプランは、全職員の日々の観察と実施を基に、毎月見直しをして本人の現状に即したものになるよう努めている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いたこと、バイタル・食事・排泄回数など記録している。意見交換ノートを共有している。介護記録にも詳細に記入し、毎日全員が目を通すようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の好きな散歩コースに行ってもらったり、買い物に出掛けたりしている。また、近くに店から弁当を取り寄せたりするなど、家庭生活と同じ感覚で生活できるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアでの音楽レクやひょっとこ踊りを楽しみながら、本人様にも参加して頂いたりしている。個人的にも将棋をされたりしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族が希望するかかりつけ医への受診の支援を行っている。看護師を中心として主治医との連携を図っている。	入所時に、かかりつけ医の選定について話し合いをし、同意書を交わしている。個人ファイルには「救急シート」、「介護添書」が綴じてあり、本人変調時の対応方について明瞭に記載してある。「救急シート」「介護添書」は毎月見直しして、最新の状態にしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問により介護職は体調や薬に関する事について相談し、指示を受けながら健康管理に努めている。看護師と当施設間では24時間電話できる体制が整っており、いつでも対応できるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との連携を密にして、常に主治医やご家族と話し合いながら、できるだけ早い退院に向け努力している。また、入院時には情報交換など関係づくりに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の対応指針及び同意書にて家族の意向を確認している。また、状態が変化した時は、今後予測される状況を説明し、ご家族の意向の変更の有無を確認している。地域の医療機関の受け入れ状況の説明を行っている。	入所時に、「重度化対応・終末時対応」について相談し、同意書を得ている。実際に重度化し、終末対応が必要になった際に同意内容について、改めて家族に相談し、確認している。現在、態勢が整わないので「看取り」は行っていない。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成しており、職員で周知すると共に、迅速な対応ができるようにしている。BLS訓練を全ての職員が受講している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と年1回の水害訓練を行っている。避難方法を消防署立ち合いの元、訓練しご指導頂いている。地域の民生委員さんや地域包括支援センターの職員の方から災害対策においての情報提供及び助言を受けている。	事業所はハザードマップ上、水害地域に入っている。非常時には同法人の老健施設に避難する事になっている。地域への声かけを行っているが、今後は老健施設への避難の際に地域からの協力が得られよう、今後運営会議等で具体的に取り組んで行く予定である。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権マナー委員会を中心に啓発活動を行い、職員の接遇やマナー及びプライバシー保護については研修会で学びを深めている。	自室を訪ねる際にはノックし、了承を得て入室している。信仰行動については、共用空間でない限り受け容れている。トイレ扉は開き戸であるため、トイレ手前にカーテンを設置している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方々の話に耳を傾け、その人の思いが表現できるように受容と共感を持って対応している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態や一人ひとりのペースの合わせた過ごし方ができるよう配慮している。入浴や余暇活動なども声掛けし、入居者の気持ちや生活リズムを尊重している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように受容と共感を持って対応している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に献立を伝え、楽しみを持って頂いている。おかずの盛り付けや食器拭きなど身体機能や意欲に応じて、一緒に行って頂けるよう努めている。	食事に使う箸やコップについては利用者本人に合わせて個別に用意されている。台所には片付け当番表が張り出され、能力に応じて片付けに携わっている。年に数度は法人調理場からの配達を断り、事業所で食事を手配したり、おやつを手作りしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事・水分量をチェックしていて、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。咀嚼などに問題のある方には、食事形態を変更して提供している。食事用具も食べやすいように配慮し、できるだけ自分で食べることができるように支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し利用者の能力に応じて、見守り・介助を行っている。希望の方には、訪問歯科を利用して頂き口腔内の継続的なケアを行って頂いている。夜間は義歯も預かり消毒を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握してさり気なく誘導するなど、なるべくトイレでの排泄ができるように支援している。夜間におむつを使用されている場合でも、訴え時にはトイレ誘導を行っている。	原則、本人からの訴えに応じて対応している。意思表示の難しい人については、排泄チェック表を活用し、本人のパターンに応じて対応している。トイレで排泄する生活へ向けて個別に支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のもたらす影響を理解して、予防に努めている。水分・運動・乳製品の摂取などの工夫を個別に行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人の希望にそえるように支援している。希望があればシャワー浴も行い、利用者のペースに合わせている。爽快感が得られ体力負担がないように配慮するとともに拒否があれば時間を空けたり、翌日にするなどの工夫を行っている。	原則、週2回の入浴であるが、要望があれば、個別に対応している。また体調や、家族との外出等、個別の事情がある際には入浴日をずらして対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	余暇活動や散歩など活動的に過ごす時間と、自室でリラックスして過ごす時間がバランス良くとれるよう個々の心身の状況に合わせた対応を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の効果と副作用について把握し観察を行うと共に、処方通りに服用できるように状態に応じた管理や確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味・趣向を把握し、その方に応じてレクリエーションを提供している。完成した作品は、共有スペースに飾り喜んで頂けている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって散歩コースを決めている。また、可能な範囲で外食や観光に出かける計画を立てている。	基本天気が良ければ毎日、一人一人のお気に入り散歩コースに出かけている。交通機関を使って遠方に外出する際には、事前に家族の同意を得て、実施している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に相談し、利用者の能力に合わせて支援を行っている。神社に散歩に出かけた際などに、お賽銭として使ったりしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者宛に手紙が送られてきた際は、一緒に返事を書いて、手紙のやり取りができるよう支援している。ご家族へ電話を希望される時は、いつでも掛けられるように対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の入口にはベンチを置き、その周囲にはプランターで、利用者と一緒に植物を育てている。また、車いすの方がトイレを利用する際、プライバシーに配慮しカーテンで隠せるようにしている。	玄関へのアプローチにベンチを置いてあり、利用者が腰掛けて思い思いに時を過ごしている。リビングの壁には利用者の書画や手芸品が飾ってあり楽しい雰囲気になっている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時間に、好きなように過ごして頂けるような雰囲気づくりに努めている。玄関入口のベンチでは日光浴ができるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物をお持ち頂いたり、ご家族の写真を飾ったりと、居心地よく過ごして頂けるように努めている。	本人が自宅で使用していた家具などを持ち込んだりしている。また家族手作りの小物や、家族の写真などが置かれてあり、自宅生活時の雰囲気が保たれるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの建物になっており、廊下・浴室・トイレなどに手すりの設置をしている。動線は確保されているか、毎日確認している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根差したホームづくりを理念に掲げ、毎朝、申し送り時に出勤職員全員が理念を唱和することで施設理念の共有と再認識を行い、常に理念に基づくケアの実施に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事の案内を行ったり、地域行事に参加させて頂いたりしている。また、散歩の時には挨拶を交わしたりしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、包括支援センターの職員の方や民生委員の方、及び入居者やご家族と地域の現状について情報交換をしている。見学の方や電話での介護相談は随時受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者様状況・活動報告や外部研修も報告している。近隣施設の参加により情報交換を行い、出た意見は議事録にまとめサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター主催の研修や集まりに参加し、情報交換に努めている。市などからくるメールやFAXで必要な情報を収集し、分からない点は電話で問い合わせ確認している。運営推進会議への参加案内も行った協力関係を築く努力をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないという認識のもとケアに取り組んでいる。研修会にてどのような行為が身体拘束にあたるのかという具体的な事象についても確認している。更衣室にも張り出し周知徹底を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが自身の接遇のあり方を振り返るようにしている。また、高齢者虐待防止の研修に参加している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、権利擁護に関する知識を深め、勉強会において全職員が学ぶ機会を持ち、活用できるように取り組んでいる。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を提示して丁寧に説明している。不安や疑問についての確認を必ず行い、理解と納得が得られるようにしている。料金改定等があった場合も速やかに連絡・説明を行い、理解と納得が得られるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して気軽に意見が頂けるようにしている。日頃よりご家族との対話を大切に話しやすい環境作りをしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月末にスタッフ会議を開き、意見交換を行っている。運営に関する疑問は管理者にすぐ伝え、意見を出し合っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の勤務状況などを報告しており、働きやすい環境作り等の整備に努めている。接遇研修の一環で表彰を行い、モチベーションの向上につなげている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用については性別や年齢等を理由に排除していない。また、個々の能力を活かしながら勤務できるように努めている。 学びの意欲が高い職員については外部研修なども受ける機会を確保している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権マナー委員会を設置し、毎月の会議のもと啓発活動を行っている。委員会による研修にも参加している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立案し、効果的な学びの機会を提供している。また、グループ全体で個々に合った研修を毎月開催してスキルupを図っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に出席したり、同業者との意見交換に参加して、積極的に交流している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初に面談し、ご本人とご家族からの相談・要望等を伺っている。面会のたびにスタッフがご本人様の様子を詳細に伝えるよう指導している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際に、必ずご家族と連絡を取り、要望等を聞き支援方法を提案している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面談時に、ご本人やご家族とのお話の中でニーズを明らかにし、必要に応じたサービスについても検討できるように支援している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の生活の中で洗濯物や掃除などお任せできることは行って頂き、生活空間を共にすることで生活における意識の共有に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事のご案内を差し上げたり、毎月、日頃の様子をお便りでお知らせしている。また、可能な範囲での外出や外泊をお願いしご家族との絆と支援体制の維持に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人などとの交流や面会を勧めるとともに、入居前に参加していた集まり事や訪れていた場所には継続して行って頂くようにしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で共有スペースの席を設け、スタッフが介入しながら利用者同士、誰とでも会話できるよう雰囲気作りを努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても定期的に連絡をとり、その後の生活の把握と必要時には支援できるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	以前、入所されていた施設で交流のあった方との面会や、縫い物などの入居前に持っていた趣味なども続けられるよう、できるだけ意向に沿った対応を行っている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から今までの生活歴を聞き、本人に合った生活リズムで過ごして頂けるよう配慮している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態や能力の把握に努め、その日の体調や気分に合わせて対応を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の心身の状況を観察し、ニーズを把握すると共に、ご家族の意向を確認しケアの方向性を決めていっている。月1回はスタッフ同士評価を行い、介護計画見直しの必要性を話し合い検討している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いたこと、バイタル・食事・排泄回数など記録している。意見交換ノートを共有している。介護記録にも詳細に記入し、毎日全員が目を通すようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の好きな散歩コースに行ってもらったり、買い物に出掛けたりしている。また、近くに店から弁当を取り寄せたりするなど、家庭生活と同じ感覚で生活できるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアでの音楽レクやひよっとこ踊りを楽しみながら、本人様にも参加して頂いたりしている。個人的にも将棋をされたりしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族が希望するかかりつけ医への受診の支援を行っている。看護師を中心として主治医との連携を図っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問により介護職は体調や薬に関する事について相談し、指示を受けながら健康管理に努めている。看護師と当施設間では24時間電話できる体制が整っており、いつでも対応できるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との連携を密にして、常に主治医やご家族と話し合いながら、できるだけ早い退院に向け努力している。また、入院時には情報交換など関係づくりに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の対応指針及び同意書にて家族意向を確認している。また、状態が変化した時は、今後予測される状況を説明し、ご家族の意向の変更の有無を確認している。地域の医療機関の受け入れ状況の説明を行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成しており、職員で周知すると共に、迅速な対応ができるようにしている。BLS訓練を全ての職員が受講している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と年1回の水害訓練を行っている。避難方法を消防署立ち合いの元、訓練しご指導頂いている。地域の民生委員さんや地域包括支援センターの職員の方から災害対策においての情報提供及び助言を受けている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権マナー委員会を中心に啓発活動を行い、職員の接遇やマナー及びプライバシー保護については研修会で学びを深めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方々の話に耳を傾け、その人の思いが表現できるように受容と共感を持って対応している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態や一人ひとりのペースの合わせた過ごし方ができるよう配慮している。入浴や余暇活動なども声掛けし、入居者の気持ちや生活リズムを尊重している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように受容と共感を持って対応している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に献立を伝え、楽しみを持って頂いている。おかずの盛り付けや食器拭きなど身体機能や意欲に応じて、一緒に行って頂けるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事・水分量をチェックしていて、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。咀嚼などに問題のある方には、食事形態を変更して提供している。食事用具も食べ易いように配慮し、できるだけご自分で食べることができるように支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し利用者の能力に応じて、見守り・介助を行っている。希望の方には、訪問歯科を利用して頂き口腔内の継続的なケアを行って頂いている。夜間は義歯も預かり消毒を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握してさり気なく誘導するなど、なるべくトイレでの排泄ができるように支援している。夜間におむつを使用されている場合でも、訴え時にはトイレ誘導を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のもたらす影響を理解して、予防に努めている。水分・運動・乳製品の摂取などの工夫を個別に行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人の希望にそえるように支援している。希望があればシャワー浴も行い、利用者のペースに合わせている。爽快感が得られ体力負担がないように配慮するとともに拒否があれば時間を空けたり、翌日にするなどの工夫を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	余暇活動や散歩など活動的に過ごす時間と、自室でリラックスして過ごす時間がバランス良くとれるよう個々の心身の状況に合わせた対応を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の効果と副作用について把握し観察を行うと共に、処方通りに服用できるように状態に応じた管理や確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味・趣向を把握し、その方に応じてレクリエーションを提供している。完成した作品は、共有スペースに飾り喜んで頂けている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって散歩コースを決めている。また、可能な範囲で外食や観光に出かける計画を立てている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に相談し、利用者の能力に合わせて支援を行っている。神社に散歩に出かけた際などに、お賽銭として使ったりしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者宛に手紙が送られてきた際は、一緒に返事を書いて、手紙のやり取りができるよう支援している。ご家族へ電話を希望される時は、いつでも掛けられるように対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の入口にはベンチを置き、その周囲にはプランターで、利用者と一緒に植物を育てている。また、車いすの方がトイレを利用する際、プライバシーに配慮しカーテンで隠せるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時間に、好きなように過ごして頂けるような雰囲気づくりに努めている。玄関入口のベンチでは日光浴ができるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物をお持ち頂いたり、ご家族の写真を飾ったりと、居心地よく過ごして頂けるように努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの建物になっており、廊下・浴室・トイレなどに手すりの設置をしている。動線は確保されているか、毎日確認している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
			○	③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
			○	③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		